

Ⅱ 教育の内容

【教育課程】

(1) 学科等の教育課程について。

< 保育科第一部・保育科第三部 >

保育科第一部教育課程

(平成22年5月1日現在)

種別	科目の 授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の 履修人員 (クラス数)	備考	
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任			
科目 基礎	日本語(読解と表現)		○			2			○		○	135(3)	
	英語		○			2			○	○	○	134(6)	
	コンピュータ演習		○			2			○		○	134(6)	
教養 科目	宗教と人生	○			2						○	114(2)	
	文学	○				2			○			10(1)	
	色彩学	○				2					○	111(1)	
	日本国憲法	○				2			○			135(2)	
	ジェンダー論	○				2					○	—	
	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)	○				2			○			126(2)	
	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)		○			2			○			134(3)	
	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)		○			2			○			74(3)	
学科 教育 科目	音楽教育A		○		1				○			134(4)	
	音楽教育B		○			1			○			134(4)	
	音楽教育C		○			1			○			123(2)	
	音楽教育D		○			1			○			96(2)	
	器楽A		○			1			○		○	134(4)	
	器楽B		○			1			○		○	134(4)	
	造形A		○		1				○	○		134(4)	
	造形B		○			1			○	○		135(4)	
	幼児体育A		○		1				○			134(4)	
	幼児体育B		○			1			○		○	135(4)	
	算数	○				2						—	開講せず
	生活概論	○				2						—	開講せず
	小児保健A	○				2					○	133(2)	
	小児保健B	○				2					○	135(2)	
	小児保健実習			○		1					○	149(4)	
	小児栄養		○			2					○	150(2)	
	精神保健	○				2					○	151(4)	
	家庭援助論	○				2					○	149(2)	
	社会福祉	○			2						○	150(2)	
	社会福祉援助技術		○			2					○	148(4)	
	児童福祉	○				2			○			121(2)	
	教育原理	○			2				○			150(2)	
	保育原理ⅠA	○			2				○			129(2)	
	保育原理ⅠB	○				2			○			148(2)	
	保育原理Ⅱ	○				2			○			1(1)	
	養護原理Ⅰ	○				2					○	134(2)	
	養護原理Ⅱ	○				2			○			72(2)	
	教育実習			○		5			○			150(2)	
	保育実習Ⅰ			○		5			○			134(2)	
	保育実習Ⅱ			○		2			○		○	147(2)	
	保育実習Ⅲ			○		2						—	開講せず
	教育心理学	○				2			○			149(2)	
発達心理学	○			2				○			133(2)		
児童心理学	○				2			○			129(2)		

	青年心理学	○				2				○	38(1)	集中講義	
	臨床心理学		○			2				○	106(1)	集中講義	
	教育制度論	○				2			○		151(2)		
学科教育科目	教師論	○			2				○		151(2)		
	保育課程総論	○			2				○		134(2)		
	保育内容・健康		○			2				○	150(4)		
	保育内容・人間関係		○			2				○	135(4)		
	保育内容・環境		○			2				○	149(4)		
	保育内容・言葉		○			2				○	132(4)		
	保育内容・表現Ⅰ		○			2			○		149(4)		
	保育内容・表現Ⅱ		○			2				○	135(4)		
	保育方法論	○				2			○			131(3)	
	養護内容		○			1				○		149(5)	
	乳児保育Ⅰ		○			2			○			133(4)	
	乳児保育Ⅱ		○			2				○		104(2)	
	障害児保育		○			1				○		135(4)	
	教育相談	○				2				○		150(3)	
	総合演習		○			2				○		148(12)	

保育科第三部教育課程

(平成22年5月1日現在)

種別	科目の	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考
			講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼担	兼任		
科目基礎		日本語(読解と表現)		○			2			○		10(1)	集中講義
		英語		○			2			○	○	72(5)	
		コンピュータ演習		○			2			○	○	73(4)	
教養科目		宗教と人生	○			2					○	73(3)	
		文学	○				2			○		—	
		色彩学	○				2				○	2(2)	
		日本国憲法	○				2			○		72(2)	
		ジェンダー論	○				2				○	—	
		健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)	○				2			○		72(2)	
		健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)		○			2			○		72(4)	
		健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)		○			2			○		10(3)	
学科教育科目		音楽教育A		○		1				○		73(3)	
		音楽教育B		○			1			○		69(3)	
		音楽教育C		○			1			○	○	57(2)	
		音楽教育D		○			1			○	○	49(2)	
		器楽A		○			1			○		73(3)	
		器楽B		○			1			○		73(3)	
		造形A		○		1					○	73(3)	
		造形B		○			1				○	70(3)	
		幼児体育A		○		1				○		73(3)	
		幼児体育B		○			1			○		70(3)	
		算数	○				2					—	開講せず
		生活概論	○				2					—	開講せず
		小児保健A	○				2				○	73(2)	
		小児保健B	○				2				○	72(3)	
		小児保健実習			○		1				○	71(3)	
	小児栄養		○			2				○	73(3)		
	精神保健	○				2				○	69(2)		
	家族援助論	○				2				○	70(2)		
	社会福祉	○			2				○	○	73(2)		
	社会福祉援助技術		○			2				○	69(3)		
	児童福祉	○				2			○		73(2)		
	教育原理	○			2				○		73(3)		
	保育原理ⅠA	○			2				○		73(2)		
	保育原理ⅠB	○				2			○		69(3)		

学科教育科目	保育原理Ⅱ	○				2		○			1(1)	
	養護原理Ⅰ	○				2				○	72(2)	午後クラス は集中講義
	養護原理Ⅱ	○				2		○			3(2)	
	教育実習			○		5		○			64(2)	
	保育実習Ⅰ			○		5		○			69(1)	
	保育実習Ⅱ			○		2		○			68(1)	
	保育実習Ⅲ			○		2					—	開講せず
	教育心理学	○				2		○			71(2)	
	発達心理学	○			2			○			73(2)	
	児童心理学	○				2		○			72(2)	
	青年心理学	○				2				○	13(1)	集中講義
	臨床心理学		○			2				○	12(1)	集中講義
	教育制度論	○				2		○			65(2)	
	教師論	○			2			○			73(2)	
	保育課程総論	○			2					○	73(2)	
	保育内容・健康		○			2				○	73(3)	
	保育内容・人間関係		○			2		○			69(3)	
	保育内容・環境		○			2		○			72(3)	
	保育内容・言葉		○			2				○	73(3)	
	保育内容・表現Ⅰ		○			2		○			69(4)	
	保育内容・表現Ⅱ		○			2				○	72(3)	
	保育方法論	○				2		○			73(3)	
	養護内容		○			1				○	73(3)	
	乳児保育Ⅰ		○			2				○	73(3)	
	乳児保育Ⅱ		○			2				○	17(2)	
	障害児保育		○			1				○	72(3)	
教育相談	○				2				○	69(2)		
総合演習		○			2			○		69(6)		

< 美術デザイン学科第一部 >

美術デザイン学科第一部教育課程

(平成22年5月1日現在)

種別	科目の	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考
			講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
基礎科目		日本語(読解と表現)		○			2			○	○	11(3)	
		英語		○			2			○	○	7(4)	
		コンピュータ演習		○			2				○	10(1)	
		生物基礎	○				2				○	—	
		化学基礎	○				2				○	—	
教養科目		宗教と人生	○			2					○	11(2)	
		生命倫理学	○				2				○	—	
		生涯発達心理学	○				2				○	2(1)	
		人間関係論(含カウンセリング)	○				2				○	1(1)	
		哲学	○				2				○	2(1)	
		文学	○				2				○	4(1)	
		芸術	○				2			○	○	2(1)	
		心理学	○				2				○	5(1)	
		宗教と文化Ⅰ(仏教)	○				2				○	5(1)	
		宗教と文化Ⅱ(キリスト教)	○				2				○	2(1)	
		宗教と文化Ⅲ(イスラム教)	○				2				○	—	
		生活とデザイン	○				2				○	5(1)	
		色彩学	○				2				○	4(1)	
		音楽表現		○			2				○	2(1)	
		アメリカ文学	○				2				○	—	
	論説と評論	○				2				○	4(1)		

領域Ⅰ

領域Ⅱ

領域Ⅲ

領域Ⅳ

領域Ⅴ

領域Ⅵ

領域Ⅶ

領域Ⅷ

領域Ⅸ

領域Ⅹ

領域Ⅰ	歴史学	○				2			○	3(1)		
	日本語表現法	○				2			○	3(1)		
	法と社会	○				2			○	—		
	日本国憲法	○				2			○	1(1)		
	人権の歴史	○				2		○		—		
	政治学	○				2			○	3(1)		
	国際関係論	○				2			○	—		
	社会学	○				2			○	—		
	ジェンダー論	○				2			○	—		
	経済学	○				2			○	4(1)		
領域Ⅱ	数学	○				2			○	—		
	物理学	○				2			○	1(1)		
	化学	○				2			○	(1)		
	生物学	○				2			○	—		
	食と健康	○				2			○	—		
	コンピュータ応用演習		○			2			○	4(1)		
	英語Ⅰ		○			2		○		2(1)		
	英語Ⅱ		○			2		○		—		
	英語Ⅲ		○			2		○		—		
	フランス語Ⅰ		○			2			○	1(1)		
	フランス語Ⅱ		○			2			○	—		
	ドイツ語Ⅰ		○			2			○	—		
	ドイツ語Ⅱ		○			2			○	—		
	中国語Ⅰ		○			2			○	1(1)		
	中国語Ⅱ		○			2			○	—		
	韓国語Ⅰ		○			2			○	—		
	韓国語Ⅱ		○			2			○	—		
	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)	○				2			○	1(1)		
	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)		○			2			○	2(1)		
	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)		○			2			○	2(1)		
	特別講義	○				2				—	開講せず	
	私のためのキャリア設計	○				2			○	1(1)		
	就職基礎能力Ⅰ	○				2			○	1(1)		
	就職基礎能力Ⅱ	○				2			○	—		
	就職基礎能力Ⅲ	○				2			○	—		
	領域Ⅲ	デザイン論	○				1				—	開講せず
		東洋美術史	○			1			○		11(1)	
西洋美術史		○			1			○		11(1)		
色彩学		○				2			○	10(1)		
仏教芸術論		○				2			○	—	開講せず	
画像情報処理概論		○				2			○	3(1)		
現代建築論		○				1			○	3(1)		
住文化論		○				2			○	5(1)		
建築インテリア計画		○				2			○	3(1)		
建築一般構造		○				2			○	4(1)		
建築史		○				2		○		3(1)		
庭園史		○				1			○	4(1)		
建築インテリア法規		○				1			○	3(1)		
建築構造力学		○				2			○	3(1)		
建築インテリア施工		○				1			○	3(1)		
建築材料学		○				2			○	4(1)		
写真論		○				1			○	2(1)		
メディア論		○				2				—	開講せず	
映像論		○				1			○	4(1)		
ビジュアルデザイン概論		○				1			○	9(1)		
マンガ論		○				1			○	2(1)		
美と造形の心理学		○				1			○	5(1)		
現代美術論		○				1			○	5(1)		

学科教育科目	デッサン		○			3			○		10(1)	
	造形の発想・マテリアル		○			3		○			7(1)	
	立体造形		○			3				○	—	開講せず
	造形表現の体験 A		○			3		○	○		11(1)	
	造形表現の体験 B		○			3				○	—	開講せず
	CG 基礎演習		○			2				○	11(1)	
	デジタルデザイン I (DTP)		○			2				○	4(1)	
	デジタルデザイン II (CAD)		○			2				○	7(1)	
	デジタルデザイン III (3D)		○			2				○	10(1)	
	デジタルデザイン IV (Web)		○			2				○	10(1)	
	洋画 A		○			3				○	6(1)	
	写真 A		○			3				○	—	開講せず
	染色 A		○			3				○	—	開講せず
	インテリアデザイン A		○			3				○	7(1)	
	版画 A		○			3		○			9(1)	
	ビジュアルデザイン A		○			3				○	9(1)	
	陶芸 A		○			3				○	—	開講せず
	イラストレーション A		○			3		○			9(1)	
	日本画 A		○			3		○			1(1)	
	建築デザイン A		○			3		○			3(1)	
	日本画 B		○			3		○			2(1)	
	写真 B		○			3				○	—	開講せず
	洋画 B		○			3				○	3(1)	
	ビジュアルデザイン B		○			3				○	10(1)	
	陶芸 B		○			3				○	—	開講せず
	建築デザイン B		○			3				○	3(1)	
	版画 B		○			3		○			11(1)	
インテリアデザイン B		○			3				○	4(1)		
染色 B		○			3				○	—	開講せず	
イラストレーション B		○			3		○			7(1)		
マンガ・アニメ		○			2				○	7(1)		
自由制作 I		○		2			○	○	○	11(1)		
自由制作 II		○			2		○	○	○	11(2)		
自由制作 III		○			2		○	○	○	8(2)		
卒業制作・卒業研究		○		4			○	○	○	11(2)		

< 専攻科保育専攻 >

専攻科保育専攻教育課程

(平成22年5月1日現在)

授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
	講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
音楽演習 I		○			2		○			1(1)	
音楽演習 II		○			2		○			1(1)	
美術演習		○			3			○		1(1)	
体育演習		○			3		○				
保育学研究	○				2				○	1(1)	
心理学研究	○				2		○			1(1)	
幼児教育学研究	○				2		○			1(1)	
保育実践研究 I	○				2				○	1(1)	
保育実践研究 II	○				2				○	1(1)	
保育実践研究 III	○				2		○			1(1)	
教育特別実習			○	10			○			1(1)	
保育内容演習 I		○			2		○			1(1)	
保育内容演習 II		○			2		○				
保育内容演習 III		○			2		○			1(1)	
保育内容演習 IV		○			2		○			1(1)	

障害児保育特論	○				2			○	1(1)
仏教教育研究	○				2			○	1(1)
情報教育演習Ⅰ		○			3			○	1(1)
情報教育演習Ⅱ		○			3			○	1(1)
情報教育演習Ⅲ		○			3			○	1(1)
児童家庭福祉研究	○				2		○		1(1)
社会福祉研究	○				2			○	1(1)
修了研究		○			12		○		1(1)

(2) 教養教育の取組み、専門教育の内容、授業形態のバランス、必修・選択のバランス、専任教員の配置等について。

< 保育科第一部・保育科第三部 >

① 教養教育の取組み

基礎科目として、「日本語（読解と表現）」、「英語」、「コンピュータ演習」の3科目6単位を設定し、教養科目としては、「宗教と人生」（必修）、「文学」「色彩学」「日本国憲法」「ジェンダー論」「健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）」「健康・スポーツ科学Ⅱ（実技）」「健康・スポーツ科学Ⅲ（実技）」の、8科目16単位を設定している。幼稚園教諭二種免許と保育士資格を取得するために必要な科目を中心に、精選した科目編成の方針をとっている。

② 専門教育の取組みと内容

学科教育科目として、52科目97単位を設定している。教育職員免許法施行規則、指定保育士養成施設指定基準等を遵守した、科目編成の方針をとっている。従って、専門教育の内容は、幼稚園教諭二種免許と保育士資格を取得するために必要な科目で満たされている。

③ 授業形態のバランス、必修・選択のバランス

授業形態は、講義、演習、実習の3種類であり、「講義」と「演習・実習」の割合は、以下のとおりである。法令遵守の立場から、各授業科目に適した授業形態を採用している。

授業形態のバランス（平成22年度）

	保育科第一部		保育科第三部	
	講義	演習・実習	講義	演習・実習
基礎・教養科目	55%	45%	55%	45%
学科教育科目	44%	56%	44%	56%

必修科目は、建学の精神の学修を含む「宗教と人生」（2単位）のほか、学科教育科目9科目15単位を設定している。法令遵守の立場から、必修・選択の設定を行っており、その意味でバランスも適切であると考えている。ただし実際は、ほとんどの学生が、幼稚園教諭二種免許と保育士資格の双方を取得することを希望しており、その場合、科目選択の自由度は低くなっている。

< 美術デザイン学科第一部 >

① 教養教育の取組み

基礎・教養科目は、基礎科目5科目10単位、教養科目51科目102単位を設定している。基礎科目は、学びの基礎力を培うことを目的とし、教養科目は、現代社会を生きる

ために必要とされる広い分野の知識や判断力を獲得させること等を目的として、設定している。

② 専門教育の取り組みと内容

学科教育科目として 58 科目 130 単位を設定している。「美術・工芸」「ビジュアルデザイン」「建築・インテリアデザイン」の 3 領域で構成しているが、1 つの領域に特化した科目選択、2 つの領域にわたる科目選択の、何れも可能であるとの方針をとっており、学生の多様なニーズに対応した教育課程を編成している。

創作活動（ものづくり）を支えるものとして、「手による表現」「コンピュータグラフィックス」「理論」を 3 本の柱とし、「美術・工芸」領域の演習科目（29 科目）、コンピュータグラフィックス関連科目（5 科目）、美術史を含む講義科目（20 単位）を、それぞれの柱に係る科目として設定している。特にコンピュータグラフィックス関連科目は、すべての領域の創作活動に必要な科目として位置づけ、学生へのキャリアサポートの面からも重視している。また、段階的に作品制作の経験を積ませ、卒業年次には、その集大成となる作品制作を行わせ、その成果を卒業制作展で発表させる「学びの流れ」を設定している。

③ 授業形態のバランス、必修・選択のバランス

授業形態の割合は以下のとおりであり、学科教育科目においては、作品制作指導関係の科目が中心となることから、演習科目の割合が高くなっている。

授業形態のバランス（平成 22 年度）

	美術デザイン学科第一部	
	講義	演習・実習
基礎・教養科目	68%	32%
学科教育科目	40%	60%

必修科目は、「宗教と人生」（2 単位）のほか、学科教育科目では、4 科目 8 単位を設定するのみであり、学生の科目選択の自由性を確保し、主体的な学修を促すことにしている。

< 専攻科保育専攻 >

教養科目は開設せず、大学評価・学位授与機構認定専攻科としての教育内容を満たすべく、23 科目 69 単位を設定している。また、このうち、14 科目 38 単位は、幼稚園教諭一種免許を取得するための科目として開設している。「理論と実践の統合」を教育方針の一つとして掲げ、「講義（10 科目 20 単位）」と「演習（12 科目 39 単位）・実習（1 科目 10 単位）」を有機的に統合させる授業形態を構築している。必修科目は、「教育特別実習」（10 単位）のみであり、1 年次Ⅱ期の火曜から金曜まで終日実習を行わせることにより、実践的な保育者の育成を期している。なお、主要科目は、専任教員が担当するよう配慮している。

(3) 当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格。また教育課程に関係なく免許・資格等を取得する機会を設けている場合は、その免許・資格名と履修方法について。

< 保育科第一部・保育科第三部 >

学科の教育課程を履修することによって取得可能になる免許・資格は、幼稚園教諭二種免許と保育士資格である。

< 美術デザイン学科第一部 >

学科の教育課程を履修することによって取得の途が開かれる資格として、「二級建築士受験資格」「木造建築士受験資格」がある。学科教育科目のうち、所定の科目を履修し、卒業後2年間の実務経験を経た場合、これらの受験資格が得られることになる。

< 専攻科保育専攻 >

専攻科の教育課程を履修することによって取得可能になるのは、幼稚園教諭一種免許である。

(4) 選択科目を学生が適切に判断して選択できるように、学生便覧やガイダンス等どのように指導しているか、また学生が希望する選択科目を履修しやすいように、時間割上どのような工夫を施しているか。

< 保育科第一部・保育科第三部 >

- ① 幼稚園教諭二種免許と保育士資格を取得するためには、学生が選択科目を適切に判断して選択できる余地が少ないというのが現状である。従って履修指導では、教育課程において選択科目であっても、免許・資格取得のためには必修となる科目について周知徹底を図っている。入学時オリエンテーション時、そして履修登録時には、その都度、「学生便覧（キャンパスガイド）」「授業計画（シラバス）」等を確認させながら、教務担当の学科教員が、詳細な説明を行っている。

- ② このような事情から、選択科目を履修しやすくするための時間割上の工夫は施していない。

< 美術デザイン学科第一部 >

- ① 基礎・教養科目、学科教育科目、ともに、科目選択の自由度は高い。学生の自己決定を尊重するとともに、進路指導も念頭におきながら、入学時オリエンテーション時、そして履修登録時には、その都度、「学生便覧（キャンパスガイド）」「授業計画（シラバス）」を活用して、クラス担任が、丁寧な説明を行っている。また、「オフィスアワー」の時間を設定し、学生が、クラス担任以外の学科教員とも、履修及び進路の相談ができる体制をとっている。

- ② 時間割上の工夫としては、基礎・教養科目の開講時限を固定化するとともに、科目によっては2つの開講時限を設定し、科目選択の便宜を図っている。また、学科教育科目については、演習科目または講義科目の連続開講、極端な空き時間、曜日による授業時間数の偏り等を避け、学生の学修リズムを尊重する形で、選択科目を時間割に設定している。

< 専攻科保育専攻 >

- ① 先に述べたように、必修科目は「教育特別実習」のみであり、学生の主体的な学修、特に「修了研究」に向けた意欲的な学修を期待する旨、履修指導時に強調している。
- ② 選択科目を履修しやすくするための時間割上の工夫は、特に施していない。

(5) 卒業要件単位数及びその他の卒業要件（必修単位の修得、学生納付金の納付等）。また学生にはどのような方法で卒業要件を周知させているか。

① 卒業要件単位数

＜ 保育科第一部・保育科第三部 ＞

保育科第一部は 2 年以上、保育科第三部は 3 年以上在学し、次の単位数を修得することが、卒業要件である。（学則第 31 条）

卒業の要件

区分	必修	選択	合計
基礎・教養科目	2 単位	4 単位以上	6 単位以上
学科教育科目	15 単位	33 単位以上	48 単位以上
合計	17 単位	37 単位以上	62 単位以上

＜ 美術デザイン学科第一部 ＞

美術デザイン学科第一部は 2 年以上在学し、次の単位数を修得することが、卒業要件である。（学則第 31 条）

卒業の要件

区分	必修	選択	合計
基礎・教養科目	2 単位	12 単位以上	14 単位以上
学科教育科目	8 単位	32 単位以上	40 単位以上
合計	10 単位	44 単位以上	62 単位以上

＜ 専攻科保育専攻 ＞

本専攻科に 2 年以上在学し、必修科目 10 単位と選択科目 52 単位以上、計 62 単位以上を修得することが修了要件である。（学則第 52 条）

② 卒業要件に係る学生納付金の納付について

「履修規程」第 7 条第 2 号に、学納金等を完納していないときは全授業科目の試験を受けることができないことを明記している。したがって、学納金の納付は卒業要件である。

学生に対する卒業・修了要件の周知については、入学オリエンテーション時、履修登録時には、その都度、学科の教務委員、クラス担任が、詳細な説明を行っている。

また、履修登録時には、修得科目を一覧出来るような表を配布し、自己管理しやすいよう配慮している。

(6) 学科等において教育課程の見直し、改善が行われているか。

＜ 保育科第一部・保育科第三部 ＞

教育課程は、幼稚園教諭二種免許、保育士資格を 2 年間または 3 年間で取得できるように編成されている。これらの免許・資格は引き続き取得させる方針であるため、教育課程の見直し、改善については、教育職員免許法の改正による「教職実践演習」の平成 22 年度からの開設を除き（授業の開講は平成 23 年度Ⅱ期から）、大きな変更は無い。ただし、平成 23 年度より、現行の保育所保育指針に対応する保育士養成課程のカリキュラム変更が予定されており、その対応について協議を行った。

< 美術デザイン学科第一部 >

美術デザイン学科第一部では、短期大学教育としての現行の教育課程を見直し、現在の社会状況を踏まえたうえで、教育課程の変更は行なわず、対策として、授業内容の改善と学生への進路指導の強化を図っている。

【授業内容・教育方法】

(1) シラバスあるいは講義要項を作成・配付する際にどのような配慮をし、どのように学生へ周知しているか。

「授業計画（シラバス）」は学科毎に作成され、学科の教育目標、教育課程、卒業所要単位、履修上の注意事項、カリキュラム表、学年暦、全科目の授業内容が記されている。「授業計画（シラバス）」は学生が理解し易い表現で具体的な記述を心掛け、各教員が提出している。次年度の「授業計画（シラバス）」は短期大学部長・学科長が目を通し、調整が必要な場合当該教員と協議している。

「授業計画（シラバス）」は、年度始めのオリエンテーション時に配布される。「授業計画（シラバス）」は、学生が、授業内容の把握、選択科目履修の選択の目安として活用できるように配慮している。

また、第1回目の授業で、担当教員よりシラバスに基いた説明を行い、内容の周知に努めている。

(2) 学生の履修態度、学業への意欲等について、学科長等はどのように把握し受け止めているか。

< 保育科第一部・保育科第三部 >

保育関係職への就職を目指すという明確な目的を持って入学するので、学業への意欲は比較的高い。

ただし、履修態度については、保育実践系の科目には強い関心を持ち積極的な学修姿勢を示すものの、理論系科目への関心・学修姿勢には極めて消極的な面が多く、多くの学生に見受けられ、授業改善や施設・設備も含めた対策が急務であると考えている。

< 美術デザイン学科第一部 >

学生は、全員が美術・デザインの分野に何らかの興味を持って入学しており、各自が一定の意欲を保っていると受け止めている。学業の面では、1年次Ⅱ期から2年次Ⅰ期にかけて開講される多くの演習科目の授業での経験により、自身の適性を発見する学生が多く、2年次Ⅱ期からの卒業制作においては、殆どの学生が意欲的に作品制作に取り組み、「卒業制作展」において、各々の成長を確認することができる。最近の傾向として、進路指導が早期化し、学生は学業と平行してキャリア活動を行っている現状から、教員は、学生の学業とともに進路にも留意し、履修態度にも常に注意を払っている。

< 専攻科保育専攻 >

幼稚園教諭一種免許取得という明確な目的を持って入学するので、学業への意欲は高い。「教育特別実習」「修了研究」を中心とした、主体的な学修が要求される授業科目が用意されており、少人数授業ということもあって、学生の履修態度は良好である。

【教育改善への努力】

(1) 学生による授業評価の概要について。

① 「学生による授業改善アンケート」の概要

平成 13 年度Ⅱ期から、毎期「学生による授業改善アンケート」を併設大学と合同の形で実施し、平成 22 年度Ⅱ期で 19 回を数える。アンケートの項目の検討や集計については、大学と合同の「授業改善アンケート実施委員会」が担当してきた。

「学生による授業改善アンケート」の調査項目（平成 22 年度Ⅱ期実施分）は以下のとおりである。

- 1) 学生の自己評価 全 5 項目
- 2) 授業に対する評価 全 12 項目
- 3) 授業環境に対する評価... 全 1 項目
- 4) 授業に関する感想・意見（自由記述）
- 5) 教員の自由設問 最大 4 項目

② 実施率及び回収率

	20 年度		21 年度		22 年度	
	I 期	Ⅱ期	I 期	Ⅱ期	I 期	Ⅱ期
対象科目数	197	244	213	229	196	218
実施科目数	148	171	133	155	162	157
実施率	75.1%	70.1%	62.4%	67.7%	82.7%	72.0%
対象人数	6,443	5,693	6,881	7,524	6,458	6,258
実施人数	4,485	4,948	3,757	4,435	5,243	4,096
回収率	69.6%	86.9%	54.6%	58.9%	81.2%	65.5%

③ 評価の結果

科目ごとに集計し、担当教員へ報告し、各教員の授業改善の基礎データとなるようにしている。また集計結果については、ホームページに掲載し学生も閲覧が可能な状態にしている。（学内からのみ閲覧）

(2) 短期大学全体の授業改善（ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動等）について、どのような組織的な取組みを行っているか。また短期大学の責任者（以下「学長等」という）は授業改善の現状について、どのように受け止めているか。

① 短期大学部全体の授業改善（FD 活動等）への取組み状況

本学では、平成 16 年度に「FD 実施委員会」を設置し、学生の学修の活性化と教員の教育指導方法の改善を促進するための方策を検討し、以下の項目について実施することが決定された。

- 1) 新任教員に対する研修
- 2) 各授業担当者の授業改善報告書の提出
- 3) マルチメディア機器の使用方法等の研修
- 4) モデル授業の公開とマニュアル作成
- 5) 教育制度の理解

平成 17 年度から、FD と授業評価との関連を明確にするために、併設の兵庫大学と共同の形で「FD・授業評価委員会」が設置され、具体化に向けてルールづくりやマニュアルについて検討し、平成 21 年度から「FD 委員会」として取組んでいる。

FD 研修会の過去 3 ヶ年の実績は、平成 20 年度は FD セミナー 1 回、授業公開を 5 回実施、平成 21 年度及び平成 22 年度は学科の特色に合わせ学科別に FD を進める「学科 FD」とシラバス記入要領説明会を実施した。さらに、平成 22 年度には、「建学の精神」、「教育

研究方針の現状と課題」及び「組織運営の現状と課題」の3つについて理解を深めるとともに、本学の特徴や雰囲気馴染むことで職務を円滑に遂行できるよう支援することを目的とした「新任教員研修」（平成21年度及び平成22年度に着任した教員を対象）を実施した。

② 授業改善の現状への評価

教員に対するFDへの意識づけを目的に「学生による授業改善アンケート」をはじめとする授業改善への取組みを行なっているが、現状ではその改善は教員の裁量に委ねられている。今後全学的なシステムとして検討を行う必要がある。

(3) 担当授業について教員間の意思疎通や協力体制、または兼任教員との意思疎通について、学科長等は現状をどのように受け止めているか。

< 保育科第一部・保育科第三部 >

毎週1回90分以上の時間をとって「学科会議」を開いており、担当授業についての教員間の意思疎通や協力体制づくりは、この時間帯に行っている。また、各種実習の事前事後指導担当者は、別の時間帯に「実習委員会」を頻繁に開き、意思疎通や協力体制づくりを行っている。保育者養成の学科であるということから、保育内容系科目、実習指導関係科目担当者間の意思疎通等が中心になっているのが現状であるが、学生の質的变化に対応し、今後は、教育課程全般にわたる、意思疎通と協力体制づくりが必要と考えている。

兼任教員との意思疎通については、年度はじめに「講師懇談会」を開催し、充分とは言えないが、意思疎通を図っている。

< 美術デザイン学科第一部 >

各専任教員は、専門分野を生かしつつ、責任を持って独自に自己の担当授業を行うことが基本であると考えている。しかし、昨今の学生の質的变化に伴い、教員間の意思疎通や協力体制づくりは、従来以上に重要になっていると認識している。毎週1回90分以上の時間をとって開かれる学科会議等を通じ、初年次教育、オムニバス形式の授業、「卒業制作展」等に向けての、意思疎通と協力体制づくりを図っている。

< 専攻科保育専攻 >

上記の保育科学科会議において、専攻科の授業についても意思疎通や協力体制づくりを図っている。

【特記事項】

(1) この《Ⅱ 教育の内容》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、他の教育機関との単位互換制度、習熟度別授業、情報・メディア教育、国際理解教育、海外研修制度、インターンシップ、女子教育の伝統継承と発展への取組み等、学科等において努力していることは何か。

< 保育科第一部・保育科第三部 >

① 習熟度別授業

「器楽Ⅰ」「器楽Ⅱ」において実施している。

② 「学生コンサート」の開催

卒業前の1月末、第一部2年生と第三部3年生に、音楽教育の学修成果を発表させるコンサートを開催している。

③ 保育現場でのボランティア活動

実習以外で学生が園や施設、子どもたちと関わる時間や場所を確保し、現場での実体験を深めることを企図している。現場からも好評である。

< 美術デザイン学科第一部 >

① 学生の授業時間外の自主的な作品制作の環境を確保するために学科専用のラボ室を設置し、コンピュータ関連機器と作品制作スペースを設けて学生に活用させている。

② 大学の地域連携の一環として、地域の自治体、その他からの依頼によるデザインの制作や、各種イベントへの参加活動によって、地域への貢献とともに、学生の学外学習の機会として位置づけ、双方の活性化を図っている。

1) 加古川市の観光協会から依頼を受け、地域グルメのキャラクターとロゴマークを学生がデザインし、採用された。

2) 龍野市から依頼を受け、祭りのイベントに、学生のグループが似顔絵描きやグッズの制作販売等で参加した。

3) 浄土真宗本願寺派（西本願寺）からの依頼により、平成20年度法要のポスターを学生がデザインし、採用された。